

ERP 市場動向に関する調査結果 2010

～2009年は不況の影響を受け前年比14.0%減 本格回復は2011年以降になる～

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にてERP市場に関する調査を実施した。

1. 調査期間:2009年12月～2010年2月
2. 調査対象:国内ERPパッケージベンダー(24社)
3. 調査方法:当社専門研究員による直接面談

<ERP(Enterprise Resource Planning)パッケージとは>

基幹業務管理パッケージで、財務会計、人事給与、販売管理、生産管理など基幹業務データを統合する情報システムを構築するためのパッケージソフトウェアをさす。

【調査結果サマリー】

◆ 5年ぶりにマイナス、ERP市場規模は2桁減の1,005億円に

2009年のERPパッケージライセンス市場は、前年比14.0%減の1,005億円であった。市場がマイナスに転じるのは5年ぶりだが、厳しい経済環境を反映し、2桁以上のダウンとなった。これまでERP市場の成長を牽引してきた自動車、電子・電子機器、機械などの大手製造業が、大幅にIT投資を抑制したため、大型案件の凍結や停止、延期が相次いだ。並行して、景気の影響を受けやすい中堅中小企業では業績の悪化によって投資余力を失う企業が増加し、中堅中小企業(年商500億円未満)向けERPパッケージの販売も不振だった。

◆ ERP市場は2010年に下げ止まり、翌年から成長路線に回帰

2010年現在、経済の先行き不透明感は強く、ユーザ企業は慎重な投資姿勢を変えていない。2010年のERPパッケージライセンス市場は、前年比マイナス4.1%の963億円となり、引き続きマイナス基調が続くと予測する。しかし、中国など新興国向け事業が好調な輸出型製造業や一部流通業など、部分的に投資を再開する企業が現われているため、2009年よりは小幅な下落に留まる。2011年には、投資の回復傾向が広範な業種に広がり、ERP市場は成長路線に戻る見通しである。

◆ 市場回復に向けIFRSやクラウドコンピューティングへのニーズ喚起を狙う

ERP市場活性化に寄与すると期待されるのは、IFRS(国際財務報告基準)導入に備えるための情報システムへの投資ニーズ拡大や、クラウドコンピューティングによる新しい利用形態の普及である。それらは2010年の段階ではユーザ企業にとって急を要する投資テーマではないため、市場を押し上げるほどのインパクトはないが、ERPベンダーはニーズの掘り起こしを狙って準備を進めている。2010年には、製品やサービスのラインナップが揃う見通しである。

◆ 資料体裁

資料名:「ERP/CRM市場の実態と展望 2009-2010」
 発刊日:2010年2月26日
 体裁:A4判 405頁
 定価:157,500円(本体価格150,000円 消費税等7,500円)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝
 設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 営業本部 広報宣伝グループ TEL:03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報宣伝グループ迄お問合せ下さい。

【調査結果の概要】

1. 2009年のERP市場概況

～2009年のERPパッケージライセンス市場は前年比14.0%減で大きくマイナスに転じる

2009年のERPパッケージライセンス市場は前年比14.0%減の1,005億円と推計した。市場がマイナスに転じるのは5年ぶりとなるが、市場環境の厳しさを反映して10%以上の下落となった。IT投資全体が削減される中で、大規模投資を伴うERP案件は延期や見送りの対象となった。どのベンダー、どの製品においても、案件の縮小や凍結、先送りなどが起き、導入費用や保守費用の値下げ要求も伴った。

業種別では、自動車、電子・電子機器、機械など加工組立製造業で景気の影響が大きかった。アジアを中心とした海外向けの投資は例外的に明るさがうかがえる。ユーザ企業規模別では、製造業大手の不振が目立った。2008年まではERP導入に積極的だった中堅中小企業も、2009年は業績悪化により投資余力を失う企業が多かったため、ERPの売上は減少した。中堅中小企業(年商500億円未満)では、引き続きオフコンからの移行(マイグレーション)が主要なERPへの投資理由だが、ニーズは停滞している。

2. 2010年以降のERP市場の展望

～2010年は4.1%減に留まりERP市場は下げ止まり、2011年以降には成長路線へ回帰

2010年も経済の先行き不透明感が強く、デフレや消費不振が続いている。ユーザ企業は慎重な投資姿勢を大きくは変えないとみられる。2010年のERPパッケージライセンス市場は、前年比4.1%減の963億円とマイナス基調ではあるが、2009年よりは小幅な下落に留まると予測する。プラス要因は、中国など新興国の需要に支えられた輸出型製造業に回復基調が現われていること、一部流通業などで投資意欲の高い企業が増えてきていること、などである。

2010年下期には、幅広い業種で景気回復後の経営強化を目的とした投資が開始されると考えられる。但し、ERPは検討や導入に長時間を要するため、IT投資全般の増減傾向が遅行して現われる傾向があるため、市場のトレンドが変化するのは2011年となる。また、2011年以降はIFRS対応やクラウドへのニーズも具体化し、市場成長に寄与すると予測する。

3. 注目動向

～市場回復に向けIFRSやクラウドコンピューティングへのニーズ喚起を狙う

ERPへの投資に繋がるポイントとして、IFRS(国際財務報告基準)対応を目的とした投資や、クラウドコンピューティングによる新しい利用形態の導入が挙げられる。これらはERPベンダーの重要なテーマとなっており、2010年には本格的な事業展開に向けた準備が積極的に進められる。ERP市場の成長要因として具体化するのには2011年以降になると考える。

3-1. IFRS(国際財務報告基準)への対応

IFRSは、世界100ヶ国以上が採用している会計基準で、企業活動のグローバル化に伴い、日本でも適用に向けた検討が進められている。2012年に政府当局によって方針が決定され、2015年から適用される見通しである。ユーザ企業がIFRSに対応するためには情報システムの改変が必要となり、ERPパッケージの導入ニーズに結びつくと期待される。2010年には大手上場企業の一部が先行して検討を開始するが、多くの企業は2012年の方針決定に合わせて準備を行い、ERPへの投資ニーズが具体化するのには2011年以降になると考えられる。

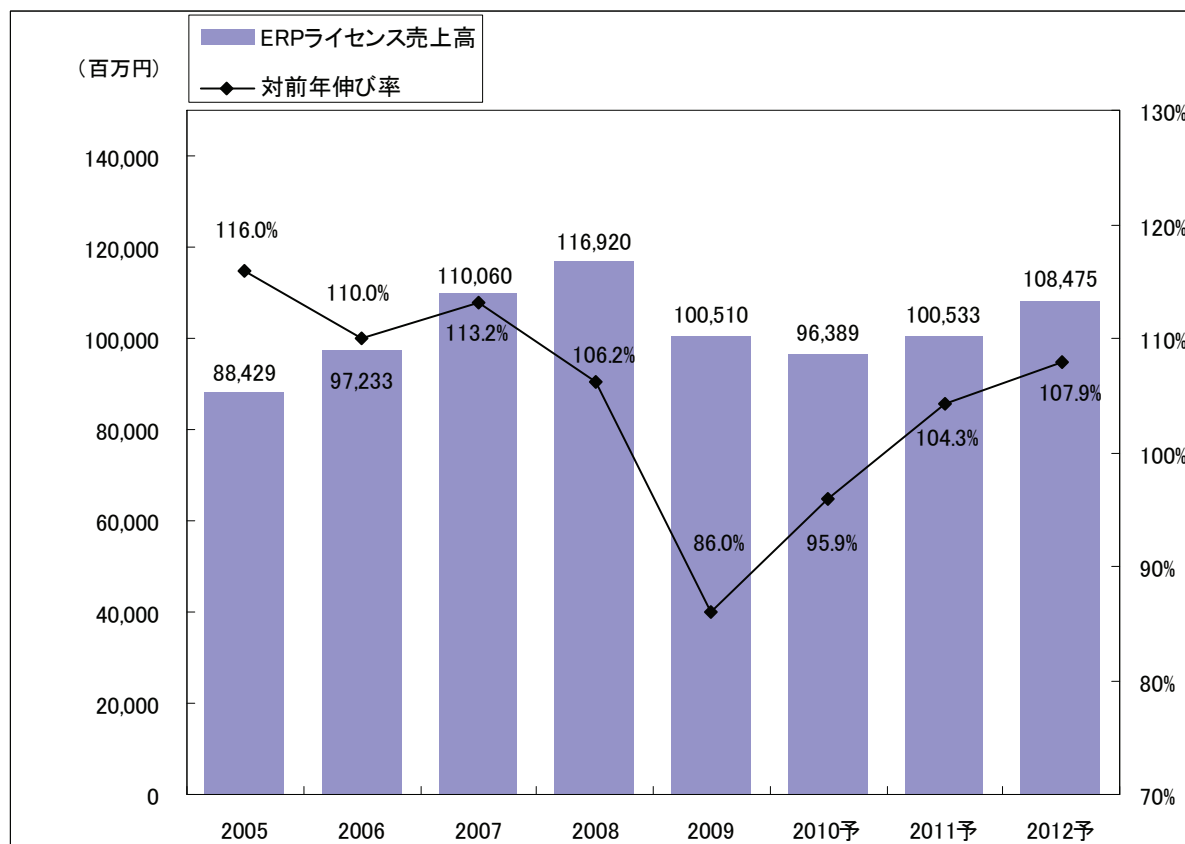
既にERPベンダーは顧客ニーズの掘り起こしのため、IFRS対応を支援するための製品やサービス提供の準備を進めている。2010年には多数のベンダーがIFRS関連ソリューションの発表を行う見通しである。

3-2. クラウドコンピューティングの影響

クラウドコンピューティングは、ITリソースをインターネットを通じて利用するサービス形態を指す。2010年初頭の段階で、複数のERPベンダーがクラウド事業を開始したほか、多くのベンダーが将来的にクラウドに対応すると表明している。2010年中に、クラウドに対応したパッケージの種類は増加するとみられる。

ERP全体ではなく、機能やシステムの一部を切り出してSaaS化する方向性で検討を進めているベンダーが多いが、完全SaaS型のERPもリリースされた。SaaS以外に、個別企業向けのプライベートクラウド環境でERPを稼働させるサービスも増えてきている。ERPはこれまでオンプレミス型(自社運用型)が主流だったが、クラウド化の進展によって、中小企業の利用増加や、大手企業のシステム運用負担軽減ニーズの取り込みが期待できる。

2010年時点ではサービス数が少ないこと、ユーザ企業の認知度が低いことなどから、クラウド型ERPの普及には1～2年程度かかると予測する。

図 1. ERP パッケージライセンス市場規模推移


矢野経済研究所推計

注 1: エンドユーザ渡し価格ベース
 注 2: 予は予測値